

地域防災実践型共同研究（一般） 中間報告（課題番号：2019P-01）

課題名：大規模噴火に伴う大量降灰に対する病院避難体制の構築

Establishment of hospital evacuation system in case of heavy ashfall due to large volcanic eruption

研究代表者：高間辰雄

所属機関名：鹿児島県立大島病院

所内担当者名：井口正人

研究期間：平成31年 4月 1日 ～ 令和 3年 3月 31日

研究場所：鹿児島大学病院 鹿児島市立病院

共同研究参加者数：5名（所外4名，所内1名）

・大学院生の参加状況：0名（修士名，博士名）（内数）

・大学院生の参加形態 []

令和2年度 実施状況

令和2年7月豪雨，令和3年7月豪雨災害で，鹿児島県内の有床病床の9.7%に当たる病院群が広域災害救急医療情報システム EMIS に入力をおこなった。本システム内の病院基本情報，詳細情報には，それぞれの有床病院の病床数，入院患者の重症度分類と人数，備蓄燃料量，備蓄食料量，自家発電の有無，井水の有無，被災患者の受け入れ可能人数，等 251 のデータ項目がある。現在，EMIS からのデータ集積は完了した。これらのデータは，豪雨災害という実災害に基づき，各病院が入力したデータで，ある程度，正確にかつ現実的な数字が表示されている。そのため，バイアスがかかりやすい個別の病院へのアンケート調査は行わなかった。現在，桜島大規模災害の被災想定を作成し，その範囲内の病院の食料備蓄状況，燃料備蓄状況，病床数を EMIS データから算出している。また，災害時の非被災地の被災者受け入れ状況に関しても，EMIS 上での受け入れ可能病床のデータを元に，被災地域の病院避難をどれだけ受け入れる事ができるかどうかを評価する。

令和3年度 実施計画

全てのデータセッティングが終了した。以下の方法でデータ解析を行う。

- 1：桜島を中心に方位を8分割し，大正噴火時の降灰状況を各方位に置き，仮想の降灰被害想定を作成。
- 2：降灰被害範囲の総病床数，備蓄食糧の平均量，備蓄燃料の平均量を EMIS より算出する。
- 3：被害地域の主要幹線道路の除灰に要する時間を算出する。算出方法は鹿児島市の方法に準じる。
- 4：被災地内の病床数と，非被災地の受け入れ可能病床数を算定，比較する。
- 5：上記データより，病院避難が可能なのか，非現実的なのかを評価する。